

「いばらき営農塾」による担い手育成

農業大学校

茨城県立農業大学校では、担い手育成の一環として、農業を始めて間もない方や新たに農業を始めようとする方を対象に、基礎的農業技術の体系的な習得を支援する「いばらき営農塾」を開講しています。平成16年の開講以来、10年間で延べ1,055名が受講し、6割の方が就農しています。

○ 目的により選べる4コース

本格的に農業経営を目指す方には「営農支援研修」を、定年帰農者等には「定年帰農者等支援研修」を用意しております。「営農支援研修」は開催時期により「Aコース」と「Bコース」、「定年帰農者等支援研修」は研修内容により「水稲入門コース」と「野菜入門コース」に分かれています。研修後には多くの方が就農しています。

研修名称	対象者	研修科目
営農支援研修	Aコース	新規就農者等
	Bコース	(各40名)
定年帰農者等支援研修	水稲入門コース	定年帰農者等
	野菜入門コース	(各40名)

平成25年度「いばらき営農塾」のコース構成



食味試験

○ 幅広い講義により農業の基礎を習得

土壌肥料、病虫害防除、雑草防除などの講義により、作物栽培を基本から学んでいます。

加えて、「営農支援研修」では農業簿記の講義もあり、本格的に農業経営を目指す内容となっています。

また、水稲入門コースでは受講者の水田で収穫したコメを持ち寄って品質・食味試験を行います。受講者は、自分のコメを客観的に評価し、改善点を見いだす機会となっています。

○ 実習により身に付く農作業

野菜を扱うコースでは実習を実施し、各種野菜の栽培方法を学んでいただいています。この実習で、パイプハウスの組み立てに始まり、マルチ張り、播種、定植からトンネル設置、農薬散布、収穫まで、基本的な作業が身に付いています。

水稲入門コースでは「稲と話ができる」ことを目標に水稲の生育診断法を身に付けていただいています。



パイプハウス組み立て

○ 現地視察で農業の現場を知る

各コースとも現地視察をカリキュラムに組み込んでいます。

研究機関等を訪問して、最新の研究成果を学んだり、先輩の農業経営者を訪ね、アドバイスなどを頂いています。また、市場訪問も実施し、流通の現場も学んでいます。



宮農塾の先輩を訪問



懇談会の様子

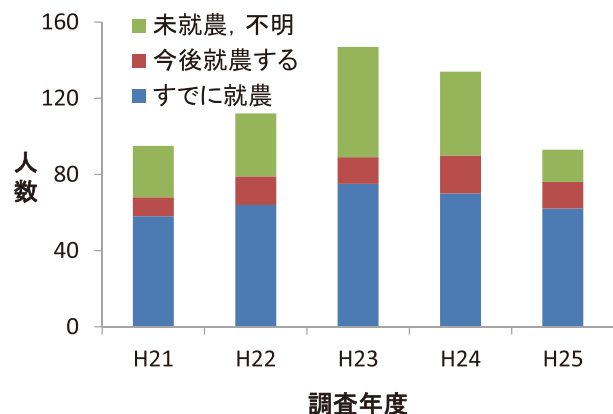
○ 受講者同士のつながり

各コースの研修期間中には、受講者同士の仲間づくりを目的に、農大スタッフを交えて懇談会を開催しています。

その結果、研修修了後も受講者が自主的にメーリングリストを作って情報交換したり、定期的集まりを持ったりと、農業を続けていくうえで互いに励みとなる交流を続けている修了生が多くいます。

○ 多くの修了生が就農

研修修了時のアンケートでは約60%の方が「すでに就農」もしくは「1年以内に就農」と回答しています。修了2年後の追跡調査でも高い割合で農業に定着していることがわかりました。



受講者の修了2年後の就農状況
※棒グラフ全体が2年前の修了生全員に該当する

○ 受講者の感想と今後の課題

受講した方からは「体系的に学べて良かった」「専門用語が分かり、周囲の先輩と話せるようになった」「同じ志を持つ人達に出会えたのは励みになった」「農業に対する考えが変わった。楽しいだけではない」といった感想がありました。また、「研修の回数を増やしてほしい」「中長期の研修、できれば通年の研修を実施してほしい」といったご意見もいただいております、これらを参考に研修のより一層の充実に取り組んでまいります。